

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
麻生医療福祉 専門学校福岡校	平成9年2月13日	竹口 伸一郎	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-29 (電話) 092-415-2294				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999				
目的	社会福祉士受験資格取得(実務経験要1年)及び精神保健福祉士受験資格取得(実務経験要1年)の為の指定科目履修を行い、高い専門性を有した福祉専門職の養成を行なう。また、独自の人間力向上のためのGCB教育を柱に、向上心と協調の精神をもって広く社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
教育・ 社会福祉	福祉・教育専門課程	心理カウンセラー科 平成28年度より学科名変更 福祉心理学科	平成22年文部科学 大臣告示第152号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2996	1534	1042	420	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
90人	76人	3人	24人	27人			
学期制度	前 期: 4月1日～9月30日 後 期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎5段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価			
長期休み	■夏 季: 8月8日～9月16日 ■冬 季: 12月26日～1月6日 ■春 季: 2月6日～4月7日		卒業・進級条件	ア.指定科目全ての修得 イ.学年の出席率90%以上 ウ.卒業基準検定の取得 エ.学生としてふさわしい生活態度			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 ガイダンスの実施。学科責任者との面談、3者面談の実施。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 社会福祉・精神保健福祉分野 ■就職率^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 100 % ■その他 (平成 27 年度卒業者に関する平成28年4月1日 時点の情報)		主な資格・検定等	社会福祉士受験資格(実務経験1年要) 精神保健福祉士受験資格(実務経験1年要) 福祉心理士(実務経験1年要)			
中途退学の現状	■中途退学者 7名 平成27年5月1日 在学者 88名 (平成27年4月 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 81名 (平成28年3月 卒業者を含む)		■中退率 8.0 % ■中途退学の主な理由 進路の変更、健康問題、経済的問題など ■中退防止のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。				
ホームページ	URL: http://www.asojuku.ac.jp/amfc/						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

心理学やカウンセリングを中心に学びながら、そこで得た知識や技術を福祉の現場でいかに発揮するかということに主眼をおいたカリキュラムを編成している。更に、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格(実務経験1年要)のカリキュラムを並行して履修することにより、高度な専門職としての知識及び技術を習得できる。

実習においては、県内複数の実習施設と蜜に連携・調整をしており、実習終了後には、実習施設の担当者と意見交換を交わして本校教育にフィードバックしている。

また、福祉現場で重要視されるマナーや職業人として持つべき志についても、本校独自のカリキュラムであるGCB(global-citizen-basic感謝と志の教育)を通じて、その人間力向上に力を注いでいる。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
大庭 欣二	社会福祉法人 シティ・ケアサービス 管理本部 本部長
江川 順一	特別養護老人ホーム 月隈愛心の丘 施設長
桑原 由美子	NPO法人 発達障がい者就労支援 ゆあしっぷ 理事長
武田 聡	NPO法人 木もれ日 カフェヒュッテ 施設長
占部 尊士	西九州大学短期大学部 准教授
松尾 智子	公益社団法人 福岡県介護福祉士会 研修委員
今村 浩司	北九州地区 精神保健福祉士協会 会長
竹口 伸一郎	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長
上野 慎輔	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行
山下 和美	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行補佐
前田 浩明	麻生医療福祉専門学校福岡校 副主任
案納 賀世子	麻生医療福祉専門学校福岡校 ソーシャルワーカー科 リーダー
川原 ゆり	麻生医療福祉専門学校福岡校 社会福祉科 リーダー
小副川 賢治	麻生医療福祉専門学校福岡校 福祉心理学科 リーダー

(開催日時)

第1回 平成27年 6月27日 14:30~16:00

第2回 平成27年11月 7日 14:00~16:00

(開催予定)

第1回 平成28年 6月25日 14:30~16:00

第2回 平成28年11月11日 14:00~16:00

第3回 平成29年 3月 3日 18:00~20:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本学科では、社会福祉士資格取得にかかる相談援助実習を240時間及び精神保健福祉士資格取得にかかる精神保健福祉援助実習を240時間履修することから、平素からの実習施設との有機的な連携をもとに、カリキュラムを編成している。また、必要に応じて病院や福祉施設の専門職を招いての講義、施設利用者(当事者)の方の講義などをカリキュラムに組み込んでいる。

さらに、演習においては可能な限りフィールドワークを実施し、現実に生じている事象から学習を深めていくことを重視している。

科目名	科目概要	連携企業等
相談援助実習	国家資格である社会福祉士の受験資格取得に向けて、高齢者施設において相談援助の現場を見学・体験し、知識と技術の習得に努める。	天空の杜、花の季苑、シティケア博多、富の里、新宮借同園

精神保健福祉 援助実習Ⅰ	国家資格である精神保健福祉士の受験資格取得に向けて、精神障害者施設や精神科病院において精神保健の現場を見学・体験し、知識と技術の習得に努める	喫茶ほっと、カフェヒュッテ、ほのぼのHAKATA、オアシス、さくら
精神保健福祉 援助実習Ⅱ	国家資格である精神保健福祉士の受験資格取得に向けて、精神障害者施設や精神科病院において精神保健の現場を見学・体験し、知識と技術の習得に努める	防府病院、佐世保愛恵病院、小倉蒲生病院、第二病院、雁の巣病院

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本学科では、日本精神保健福祉士学会において先進的な研究や実践等を行っている全国の精神保健福祉士と交流して、国の施策動向や最新の実践情報を収集し、その内容を教員間で共有し、学生に還元している。

また、各教員が専門領域のみ見識を深めるのではなく、他専門分野との連携を図りながら、研修・研究活動を行っている。また、学生指導面においても、有用な指導案研修などはキャリアに応じて受講している。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
玉ノ井 敏子	社会福祉法人 まごころ会 あゆみらい保育園 園長
渡辺 裕子	社会福祉法人 宰府福祉会 すみれ園 園長
桑原 由美子	NPO法人 発達障がい者就労支援 ゆあしっふ 理事長
武田 聡	NPO法人 木もれ日 カフェヒュッテ 施設長
江川 順一	特別養護老人ホーム 月隈愛心の丘 施設長
大庭 欣二	社会福祉法人 シティ・ケアサービス 管理本部 本部長
占部 尊士	西九州大学短期大学部 准教授
松尾 智子	公益社団法人 福岡県介護福祉士会 研修委員
今村 浩司	北九州地区 精神保健福祉士協会 会長
潮田 大介	有限会社 ケンルック 事務長
副島 和代	そえじま内科クリニック 事務長
住吉 夏実	社会医療法人 財団白十字会 白十字病院 庶務課広報係り 主任
小西 英樹	公立学校共済組合 九州中央病院 事務次長
池田 典生	一般財団法人 日本医療教育財団 福岡支部長
熊谷 智彦	学校法人 久留米学園 久留米学園高等学校 校長
高田 照幸	株式会社 たかた商会 代表取締役
中島 文香	こども未来学科 在校生保護者
野上 祐子	社会福祉科 在校生保護者
蒲池 桂子	心理カウンセラー科 在校生保護者
多久島 恵子	介護福祉科 在校生保護者
尾下 千賀子	ソーシャルワーカー科 在校生保護者
佐藤 豊枝	医療秘書科 在校生保護者
塚本 明子	医療情報科 在校生保護者
岩丸 博美	診療情報管理士科 在校生保護者
山本 千紘	こども未来学科 卒業生
宮井 浩志	社会福祉科 卒業生
児玉 諒	心理カウンセラー科 卒業生

池上 幸子	介護福祉科 卒業生
山下 朋子	ソーシャルワーカー科 卒業生
大本 葉	医療秘書科 卒業生
庄崎 綾乃	医療情報科 卒業生
中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: http://www.asojuku.ac.jp/wp-content/uploads/2015/10/hyoka_amkc.pdf

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/>

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/amfc/>

授業科目等の概要

(福祉・教育専門課程 福祉心理学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			現代社会と福祉Ⅰ	現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。	1前	30		○			○			○	
○			現代社会と福祉Ⅱ	相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。	1後	30		○			○			○	
○			心理学理論と心理的支援	心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。	1前	30		○			○			○	
○			保健医療サービス	相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。	1前	30		○			○			○	
○			相談援助の基盤と専門職Ⅰ	社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。	1前	30		○			○			○	
○			相談援助の基盤と専門職Ⅱ	総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	1後	30		○			○			○	
○			相談援助演習Ⅰ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1前	30			○		○			○	
○			相談援助演習Ⅱ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1後	60			○		○			○	
○			高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）について理解する。	1後	30		○			○			○	
○			高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。	2前	30		○			○			○	
○			交流ゼミⅠ-①	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	1前	16			○		○			○	

○		交流ゼミⅠ-②	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	1後	16			○	○	○				
○		マナーⅠ	社会人としての基礎的なマナーを理解し、行動出来るよう力を付ける。	1前	30			○	○	○				
○		マナーⅡ	色々な場面での対応例を具体的に学びながら、より実践的なマナーを身に付ける。	1後	30			○	○	○				
○		手話Ⅰ	聴覚障害についての正しい理解を深めると共に、手話の基礎的な運用技能を身につける。	1前	30			○	○	○				
○		手話Ⅱ	聴覚障害についての正しい理解を深めると共に、手話の基礎的な運用技能を身につける。	1後	30			○	○	○				
○		点字	視覚障害についての正しい理解を深めると共に、点字の基礎的な運用技能を身につける。	1前	30			○	○	○				
○		コミュニケーション論	コミュニケーションが人間関係作りに果たす役割の重要性について学び、ロールプレイを通してコミュニケーション力の向上に努める。	1前	30			○	△	○			○	
○		音楽療法Ⅰ	音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上に向けて、意図的、計画的に活用する技法を学ぶ。	1前	30			○	○	○			○	
○		音楽療法Ⅱ	音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上に向けて、意図的、計画的に活用する技法を学ぶ。	1後	30			○	○	○			○	
○		レクリエーションⅠ	レクリエーションの意義を理解すると共に、レクリエーションインストラクターの資格取得を目指して、その指導法について学ぶ。	1前	30			△	○	○			○	
○		レクリエーションⅡ	より実践的なレクリエーションの指導法について理解し、事業参加や体験を通してその力を身に付ける。	1後	30			△	○	○			○	
○		自己表現Ⅰ	演劇やダンスなどの表現活動を通して、自己を開放し、表現する力を身に付ける。	1前	30			○	○	○			○	
○		自己表現Ⅱ	演劇やダンスなどの表現活動を通して、自己を開放し、表現する力を身に付ける。	1後	30			○	○	○			○	
○		エンカウンター演習	エンカウンター体験を通して本音を表現し、それを互いに認め合う事で、自己理解や他者への気付きを深める。	1前	16				ア 指定 科	○			○	
○		グローバルシズンベリックⅠ	感謝と思いやりをテーマに、人間力、集団力、マナーの本質、行動力を学ぶ。	1前	16			○		○			○	

○		精神保健の課題と支援Ⅰ	精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。	2前	30		○		○	○								
○		精神保健の課題と支援Ⅱ	精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。	2後	30		○		○	○								
○		精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。	2前	30		○		○	○								
○		精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。	2後	30		○		○	○								
○		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。	2前	30		○		○	○								
○		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。	2後	30		○		○	○								
○		交流ゼミⅡ-①	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	2前	16			○		○								
○		交流ゼミⅡ-②	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	2後	16			○		○								
○		ピアヘルパーⅡ	カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人と関わる為に必要な基本的な力を身に付ける。	2前	30		○	△		○								
○		ピアヘルパーⅢ	カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人と関わる為に必要な基本的な力を身に付ける。	2後	30		○	△		○								
○		芸術療法Ⅰ	絵や音楽、陶芸や製作活動などを通して、知的障害者や精神障害者の心を表現させることにより、自立に向けての支援や精神疾患の治療に繋げる手法を学ぶ。	2前	30			○		○								
○		芸術療法Ⅱ	絵や音楽、陶芸や製作活動などを通して、知的障害者や精神障害者の心を表現させることにより、自立に向けての支援や精神疾患の治療に繋げる手法を学ぶ。	2後	30			○		○								
○		福祉住環境コーディネーター	高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を整備するためのコーディネートを学び、利用者並びに利用者の家族の立場にたった住環境整備を円滑化するための知識を得ると共に、検定試験合格を目指す。	2前	30		○			○								
○		社会理論と社会システム	社会理論による現代社会の捉え方を理解する。	2後	30		○			○								
○		精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰ（基礎）	精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。	2後	30		○			○								

○		精神保健福祉 援助演習Ⅰ (基礎)	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	2 後	30				○	○	○							
○		精神保健福祉 援助実習指導 Ⅰ	精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。	2 後	60				○	○	○							
○		就職実務Ⅰ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れや対策を深める。	2 後	30				○	○	○							
○		相談援助実習	相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。	2 前	180					○	○	○	○	○				
○		精神保健福祉 援助実習Ⅰ	精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。	2 後	120					○	○	○	○	○				
○		権利擁護と成 年後見制度	相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。	3 前	30				○	○	○							
○		人体の構造と 機能及び疾病	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。	3 前	30				○	○	○							
○		相談援助の理 論と方法Ⅲ	相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む）	3 前	30				○	○	○							
○		相談援助の理 論と方法Ⅳ	相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。	3 後	30				○	○	○							
○		精神障害者の 生活支援シス テム	精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。	3 前	30				○	○	○							
○		精神保健福祉 相談援助の基 盤Ⅱ（専門）	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。	3 前	30				○	○	○							
○		精神保健福祉 援助演習Ⅱ (専門)	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3 前	60				○	○	○							
○		精神保健福祉 援助実習指導 Ⅱ	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	3 前	30				○	○	○							

○		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について理解する。	3前	30		○		○	○				
○		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。	3後	30		○		○	○				
○		交流ゼミⅢ－①	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	3前	16			○		○	○			
○		交流ゼミⅢ－②	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	3後	16			○		○	○			
○		カウンセリング概論	カウンセリングの基礎について理解を深め、カウンセリングの技法を習得する。	3前	30		○			○	○			
○		情報処理Ⅰ	情報の意味とコンピューターの発達過程、ハードウェア・ソフトウェアについて理解する。	3前	30				○		○			○
○		情報処理Ⅱ	社会に出て最低限必要なWord、Excel、PowerPointの基本操作技術を習得する。	3後	30				○		○			○
○		犯罪心理学	犯罪を犯してしまう人間の心理について知り、特に児童や精神障害者の触法について、そのメカニズムを学ぶ。	3前	30		○			○				○
○		就職実務Ⅱ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れや対策を深める。	3前	30		○			○				○

○		就職実務Ⅲ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れや対策を深める。	3 後	30		○			○								
○		金曜ゼミⅠ	福祉に関連する興味のある内容や分野について、自主的な学習を通して学びを深める。また、ボランティア活動を通して自己を研鑽する。	3 前	30		○			○								
○		金曜ゼミⅡ	福祉に関連する興味のある内容や分野について、自主的な学習を通して学びを深める。また、ボランティア活動を通して自己を研鑽する。	3 後	30		○			○								
○		福祉行財政と福祉計画	福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解する。	3 後	30		○			○								
○		低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。	3 後	30		○			○								
○		福祉サービスの組織と経営	福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。	3 後	30		○			○								
○		社会調査の基礎	社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。	3 後	30		○			○								
○		相談援助演習Ⅲ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3 後	60		○			○								
○		選択授業Ⅰ	児童・身体障害・知的障害・精神障害・高齢者の中から将来を見据えて一分野を選択し、その学びを深める。	3 前	16		○			○								
○		選択授業Ⅱ	選択授業Ⅰ以外のプラスα授業の中から、自己のスキルアップを目指し一科目を履修する。	3 後	16		○			○								
○		精神保健福祉援助実習Ⅱ	総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	3 前	120					○			○	○	○	○	○	○
合計			89科目	2996単位時間(単位)														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 学年の出席率が90%以上であること。 学生としてふさわしい生活態度であること。 		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。